

令和7年度  
地域防災力充実強化推進事業  
**事例集**

令和8年3月  
総務省消防庁地域防災室

# 地域防災力充実強化推進事業（令和7年度）

<b>事業名</b>	<b>福井県地域防災力充実強化シンポジウム</b>					<b>事業費</b>	4,523千円
------------	---------------------------	--	--	--	--	------------	---------

<b>実施団体</b>	<b>福井県</b>	<b>連携団体</b> (該当黒字)	地方公共団体	自主防災組織	自治会(町内会)	教育機関	企業・事業所
			消防団	女性防火クラブ	少年消防クラブ	ボランティア・NPO団体	
			社会福祉協議会	医療機関	防災士会	その他( )	

## 地域課題・特性

近年、令和4年8月の大雨や令和6年能登半島地震など災害が激甚化するなか、住民避難の際に大きな役割を果たす自主防災組織等による地域防災活動に注目が集まっているが、支援活動を行う者の高齢化や、災害に関する住民意識の希薄化等が課題となっている。

## 事業目的

地域の防災活動団体の連携を図りながら地域防災力の充実強化を進めるため、地域防災力充実強化シンポジウムを県内で開催する。また、女性防火クラブ連絡協議会創立40周年記念式典を兼ね、各クラブの地域活動のさらなる発展を図る。これらにより、福井県の地域防災力を向上させ、発災時における被害の極小化を図る。

## 事業内容

- ・福井県女性防火クラブ連絡協議会創立40周年記念式典
- ・有識者による基調講演
- ・地域の防災活動団体による事例紹介
- ・有識者、消防職員、女性防火クラブ、自主防災組織、医療関係者によるパネルディスカッション
- ・防災パネル展示ブース

## 事業成果

人口減少・少子高齢化が進む中、新たな地域防災の担い手となる女性に多く参加してもらい、災害に関する意識付けを行うことで、地域防災力の底上げにつながった。



記念式典
基調講演
女性防火クラブ事例紹介

福井大震災語り部の会による紙芝居
パネルディスカッション
パネル展示

## 今後の課題・展望

女性防火クラブや自主防災組織等の活動紹介等を実施するとともに、各団体に積極的な参加を呼びかけ、情報交換の場となるようなイベントを継続していく。

# 地域防災力充実強化推進事業（令和7年度）

<b>事業名</b>	<b>過去災害から学ぶ風水害防災体制強化事業</b>	<b>事業費</b>	5,000千円
------------	----------------------------	------------	---------

<b>実施団体</b>	<b>愛知県</b>	<b>連携団体</b> (該当黒字)	地方公共団体	自主防災組織	自治会(町内会)	教育機関	企業・事業所	
			消防団	女性防火クラブ	少年消防クラブ	ボランティア・NPO団体		
			社会福祉協議会	医療機関	防災士会	その他( )		

**地域課題・特性**

近年は全国で豪雨災害が相次ぐ一方、本県では2000年の東海豪雨以降、大規模災害を経験していない。2025年度の県の意識調査では、南海トラフ地震や豪雨災害への関心が57.4%と前回より増加しており、県民の危機意識が高まっている。今後の災害に備えるためには、住民同士の共助を強化し、地域防災力を高めることが重要な課題となっている。

**事業目的**

東海豪雨から25年に当たる2025年度に、シンポジウムの開催および地域別の災害教訓パンフレットの作成を通じて、本県における風水害の災害教訓を学び、地域の防災意識と対応力の向上を図ることを目的として、風水害防災体制強化事業を実施する。

**事業内容**

東海豪雨災害から25年の節目に、愛知県と名古屋大学減災連携研究センターが「東海豪雨25年シンポジウム」を開催した。本シンポジウムでは、災害の教訓やその後の対策の進展について情報を共有するとともに、県民や関係機関が防災について意見交換を行う場を設けた。

また、東海豪雨だけでなく伊勢湾台風など過去の風水害の教訓を伝えるため、地域住民へ配布する「歴史風水害記録に学ぶ防災・減災ガイド」を作成した。

**事業成果**

「東海豪雨25年シンポジウム」では、災害の教訓や対策の進展を共有し、県民や関係機関が防災について理解を深め、連携を強化する機会が創出され、防災意識の向上や関係機関の連携強化といった成果が得られた。

また、東海豪雨だけでなく伊勢湾台風など過去の風水害の記録を伝える「歴史風水害記録に学ぶ防災・減災ガイド」を3種類(全域編、尾張地方、三河地方)各5,000部作成することで、県民の防災意識の向上を図った。



シンポジウムの講演



シンポジウムの  
パネルディスカッション



ガイドの表紙

**今後の課題・展望**

今後も、災害の節目に合わせてイベントの実施を検討し、防災意識の向上や関係機関の連携強化の一層の充実を図る。

また、引き続き、各種イベントや防災訓練等において「歴史風水害記録に学ぶ防災・減災ガイド」を配布し、地域防災力の向上に取り組む。

# 地域防災力充実強化推進事業（令和7年度）

<b>事業名</b>		<b>地域防災力強化シンポジウム実施事業</b>				<b>事業費</b>	5,000千円
<b>実施団体</b>	<b>京都府</b>	<b>連携団体</b> (該当黒字)	地方公共団体	自主防災組織	自治会(町内会)	教育機関	企業・事業所
			消防団	女性防火クラブ	少年消防クラブ	ボランティア・NPO団体	
			社会福祉協議会	医療機関	防災士会	その他(大学生消防防災サークル)	

## 地域課題・特性

京都府は南北に細長く山地・中山間地域が約7割を占め、盆地や河川・海岸低地に都市が立地し、水害・土砂災害等のリスクが高い。人口減少地域と人口集中地域を併せ持つ中、防災人材の育成や消防団員の確保が課題となっている。

## 事業目的

能登半島地震や南海トラフ臨時情報などにより災害に対する危機意識が高まる中、府民が災害に対する備えの大切さを改めて認識する機会を作り、さらなる自助、共助の意識を醸成するとともに、女性や若手の消防団員、大学生消防防災サークル、女性防火クラブ、防災士ら各活動主体の新たな参画者を増やし、もって地域防災力の向上を図る。

## 事業内容

多くの消防関係者が集まる消防大会の機会を活用し、府民向けに講演・活動発表・展示等を一体的に実施する。講演では、輪島市消防団長を招き、災害対応の経験や教訓を共有する。活動発表では、京都市中京女性消防隊、京都学生FAST等が日頃の取組を紹介し、担い手確保と参画意欲の向上につなげる。講演と活動発表は府のYouTubeチャンネルで同時に広く配信し、会場外にも情報発信する。展示ブースでは、京都市内各消防団・京都府女性防火クラブ・日本防災士会京都府支部等が活動内容を展示し、防災の呼びかけを行う。あわせて、こども防火服の着装やミニ消防車体験、記念撮影スポット、防災クイズ等を実施し、子どもを含む家族も楽しみながら防災に触れられる機会とする。

## 事業成果

本事業は、府民の自助・共助意識向上と、担い手不足が課題となる地域防災活動への参画促進に寄与した。アンケートでは「地域防災力の重要性の理解が深まった」が88.6%、防災意識の変化が80%、防災行動への影響が82.5%と高く、今後の参加意欲も90%が「参加したい」と回答しており、防災意識醸成の基盤形成につながった。また、事前の打合せや当日の展示を通じて参加団体間の役割理解とネットワークが強化され、今後の共同取組や連携企画の発展が期待される。こうした協働関係を継続的に育てることで、地域全体の防災力向上に資する「つながり」の形成につながった。



大会周知用チラシ



講演



展示ブース

## 今後の課題・展望

総合防災訓練や市町村事業等と連携して同様のイベントの継続的な開催を検討し、防災体験機会を拡充するとともに、消防団の魅力発信や団体間連携の強化を図る。

# 地域防災力充実強化推進事業（令和7年度）

事業名	鳥取県西部地震25年シンポジウム	事業費	2,699千円
-----	------------------	-----	---------

実施団体	鳥取県	連携団体 (該当黒字)	地方公共団体	自主防災組織	自治会(町内会)	教育機関	企業・事業所	
			消防団	女性防火クラブ	少年消防クラブ	ボランティア・NPO団体		
			社会福祉協議会	医療機関	防災士会	その他(学生防災サークル)		

### 地域課題・特性

本県は、平成12年10月に県西部で最大震度6強の地震が発生し、大きな被害を受けた。被災者の高齢化が進み、地震の記憶・教訓の風化が危惧され、鳥取県西部地震を経験していない世代も増えており、幅広い層の地域住民に、過去の地震の教訓や課題を認識してもらい、その上で未来に起こり得る災害について考えてもらう必要がある。

### 事業目的

令和7年は鳥取県西部地震から25年の節目にあたることから、この機会を捉えて、風化が懸念される教訓や、災害は他人事ではないということを広く県民に再認識してもらい、地震等に備えた取組や、人口減少が進む地域での自助・共助を継続していくことの重要性及び困難さについて学び、10年先を見据えて、地域でつないでいく防災意識の醸成を図る。


### 事業内容

日時・場所: 令和7年10月6日(月) 米子コンベンションセンター  
 内容: (1) 基調講演 講師: 室崎益輝氏(神戸大学名誉教授)  
 (2) パネルディスカッション  
 テーマ: 『災害に強い「支え愛」のまちづくりのために私たちができること』  
 コーディネーター: 室崎益輝氏(神戸大学名誉教授)  
 パネリスト: 鳥取大学防災サークル 鳥大防災Lab.、境港市社会福祉協議会 志賀 智子 氏、日野ボランティア・ネットワーク 山下 弘彦 氏、鳥取県社会福祉協議会 白鳥 孝太 氏、輪島市災害ボランティアの会 三谷 みはる 氏、鳥取県知事 平井 伸治  
 (3) 「とっとり防災支え愛宣言2025」の提案、宣言  
 (4) 展示 感震ブレーカーや地震関連のパネル、耐震ベッド、防災グッズ  
 (5) とっとり災害記録伝承ポータル「鳥取県西部地震の概要」等を放映


### 事業成果

有識者や実際に防災に係る活動をしている方からの講演やパネルディスカッションにより、鳥取県西部地震からの復興や、その中で得た「支え愛」による地域づくりの重要性、また令和6年能登半島地震の被害や地域の助け合い等を学ぶことができ、参加者からは「共助や互助の重要性について改めて実感した」「大変役立つヒントがたくさんあった、今後の活動に役立てたい」といった前向きな回答が多くあり、今後の県内の地域防災力向上に繋げることができた。

また、当日は会場内で感震ブレーカーや耐震ベッドについてパネルや実物の展示を行い、普段の備えについても周知し、認知度等のアンケートを実施した。その結果を今後の事業に活用していく。



シンポジウムの様子



耐震ベッド



とっとり防災支え愛宣言2025

### 今後の課題・展望

「とっとり防災支え愛宣言2025」の実践やアンケートの意見等を今後の本県の事業に反映させ、事業を展開することで、より効果的に本県の地域防災力の向上につなげていく。

# 地域防災力充実強化推進事業（令和7年度）

<b>事業名</b>	令和7年度別府市次世代の防災力強化のためのシンポジウム	<b>事業費</b>	4,915千円
------------	-----------------------------	------------	---------

<b>実施団体</b>	<b>大分県別府市</b>	<b>連携団体</b> (該当黒字)	<b>地方公共団体</b>	<b>自主防災組織</b>	<b>自治会(町内会)</b>	<b>教育機関</b>	<b>企業・事業所</b>		
			消防団	女性防火クラブ	少年消防クラブ	ボランティア・NPO団体			
			社会福祉協議会	医療機関	防災士会	その他( )			

## 地域課題・特性

当市では、過去大規模災害を経験した住民は少なく、各地域によっては防災意識への取り組みなどにも差があり、特に防災訓練等への若年層や女性の参加率が低い。また、少子高齢化に伴い、若年層世代の地域防災リーダーとなる育成等や地域団体への参加が課題である。

## 事業目的

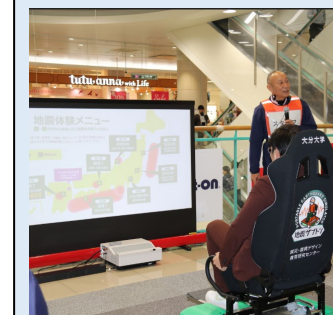
人口減少社会、少子高齢化において、地域防災の担い手として女性や若者は重要であると考えます。女性や若年層に対して、まず防災に興味をもってもらい、地域防災力の充実強化を図りたい。また、防災意識を高めることで、次世代の地域防災リーダーとなる若者の育成に繋げることを目的とする。

## 事業内容

若年層や女性層に訴求力がある著名人ゆうちゃみさん、エイトブリッジさん、中島知子さん等を招待し、ターゲット層に対して防災に関する講演を行った。出演者の方に「防災に対してどのようなことに興味があるのか?」、「防災リュックでどんなものを準備したら良いのか?」、参加されている方々に対して、防災に関するメッセージを出演者さんからそれぞれ頂いた。過去の災害事例紹介では、石川県能登半島地震の被災経験者を招待し、当時の被災状況等について講演を行い、会場の参加者に対して、大規模災害時の状況や、災害への備えについての大切さを講演頂いた。市内の高校や大学等の学生が主体となり、9つの災害ブース体験を運営し、参加者に対して身近に防災を体験してもらい、楽しく学びながら興味を持ってもらいました。

## 事業成果

今回の事業では学校機関を中心に多くの学生や女性職員にご協力いただきました。また、ゆうちゃみさん、エイトブリッジさん、中島知子さん等に出演していただいたことで、防災に興味を持っていただきたい層への防災普及ができました。能登半島地震を振り返るでは、実際の大規模災害を経験した被災者のお話を聞くことは参加された住民にとって貴重な経験となりました。学校機関が運営する防災体験ブースでは、お子さんや親子で防災を体験することができ、防災普及につなげることができました。防災体験コーナーでは出演者に対し、学生から説明をすることで、参加された学生からは、防災意識が高まったと意見が上がりました。



防災ブース体験



ゆうちゃみさん等の出演者の防災トークショー



ゆうちゃみさんの防災ブース体験で学生さんが説明

## 今後の課題・展望

今回の事業のターゲット層である若年層や女性には防災に対して興味をもってもらうきっかけになったと思います。今後は、災害に対して準備や対策に取り組んで頂き、要配慮者等の災害弱者に対して支援するような行動に繋げていきたいと考えます。そこで、学校機関と協力して引き続き、継続した防災普及活動を行っていきたいと考えます。